

校長のつづやき 11



校長の内田です。

この仕事をしていると生徒、先生、保護者、学校に来る方々など、多くの人と出会います。会うと必ずあいさつをします。「おはようございます」だったり、「こんにちは」だったり、「さよなら」だったり。はじめての人には「はじめまして」です。今までどれくらい挨拶をしたのでしょうか。今日は「あいさつ」の話をしたと思います。

以前、働いていた学校で30代の若い先生の話です。私の姿が見えると遠くからでもその先生から挨拶をしてくれます。もちろん私も返します。礼儀正しいなあって思っていました。でも生徒が横を通るときには挨拶をしないんです。あれ？いつもは礼儀正しいのにどうしたのかな？よく見ると生徒が先に挨拶をしてくれるときちんと挨拶を返しています。生徒が挨拶をしないときには、その先生もしない。とても気になったのでその先生に聞いてみました。なぜ「廊下で会った生徒に挨拶をしないの？」その先生は言いました。「あいさつは下の者から先に挨拶をするものです。それが常識です。」えっ？そうなの？？そんな常識をきいたこともないし、私にはそんな感覚は全くないけど。それに下の者って何？（たぶん年下という意味で言ったんだと思いますが）あいさつってそういうものではないですよね。



ではあいさつって何でしょうか？

語源をたどってみたいと思います。

「おはよう」…自分より先に出てきていた人に対して、後から来た人が「お早いですね」という意味を込めて、「お早うお越しで」などと声をかけていたのが始まり

「こんにちは」…「今日は（こんにちは）ご機嫌いかがですか」、「今日は（こんにちは）いい天気ですね」などと日中に出会った人に話しかけていたのが、後半が略されたもの

「さようなら」…「然様（さよう）ならばく＝そういうことならば>、お別
れですね」などと言葉が略されたもの

「ありがとう」…めったにないことという意味の「有り難し（あり
がたし）」がウ音便化したもの。珍しいものへの感謝
の言葉になった



「すみません」…「仕事を終える」「気持ちがおさまる」「満足する」という意味を持つ動詞
「済む」に丁寧語の「ます」付け、否定した形

諸説あるのですが、こんな感じが一般的なようです。

また、「あいさつ」にも語源があります。あいさつを漢字で書くと「挨拶」です。

「挨…「押し開く」、「互いに心を開いて近づく」

「拶…「迫る」、「擦り寄る」

併せて、「出会った人がお互いに心を開いて相手に迫っていくこと」とされています。

どの挨拶の語源から見ても人と人の会話の中からできたものです。私の結論は挨拶とは
「人と人をつなぐ大事なコミュニケーションツール、目の前の相手とよい人間関係を築いて
いくための方法」ではないかと思っています。

挨拶をすることはとても大事ですね

若いころはこちらから挨拶をしても返ってこない、「なんだよ」と思うこともありまし
たが、今は全く思わなくなりました。それは挨拶を返してほしくて挨拶をしているのでは
ないということに気づいたからです。「こちらはいつでも心開いてるよ」って、伝えている
だけです。でも、返してくれたら嬉しいですけどね（笑）

向陽館の先生方は積極的に生徒のみなさんに挨拶をしてくれています。嬉しい限りです。

おまけです。

授業を回っていた時のこと、ある教室でプリントが前から回ってきま
した。もらった生徒が「ありがとう」と言ったので、その生徒に「あり
がとうを言えて偉いね」って声を掛けたら、「校長先生に褒められた」
と喜んでました（?）。何気ないことにも感謝の気持ちを伝えられるあ
なたは本当に素敵です。私はその生徒を見てとても嬉しくなりました。



今日はここまでです（了）